

地方組織の役割発揮を

東京地連と近畿地協が合同会議

6月25日、京都市内で金融労連東京地連と近畿地協が初の合同会議を開催し、本部役員4人を含め26人が参加しました。

金融労連が結成されて5年が経過しようとしていますが、地方組織としてさまざまな課題を抱えているため、「金融労連の拠点に位置する地方組織の役割と任務を自覚する立場から、将来における組織の活路・発展を見出すために、両組織の活動の教訓・課題等を共有し学びあう」ことを目的に今回の合同会議が開かれました。

参加者の自己紹介の後、両組織から現状報告が行われ、東京地連・高橋委員長は「東京地連は、金融機関に公正な競争をさせるため、ひとつの労働組合のように闘ってきた。西日本の核である近畿地協と闘いを交流し、今後の運動に活かしたい」と述べ、近畿地協・福井事務局長も「近畿地協は旧の金融3単産の組織が、合同したので、それぞれの運動スタイルや伝統の違いなどから、しばしば激論も闘わせてきたが、少しずつ単組だけの活動スタイルから抜け出しつつある」などと述べまし

た。

その後、現状と課題、組織拡大運動や職場闘争の経験交流などを中心に討論が行われました。

討論では「人事考課制度の実際の運用が『評価結果がきちんとフィードバックされていない』『評価結果に文句が言えない』『正しく行なわれていない』『社会受けする経営者の発言の裏で、職員は朝6時過ぎから残業代なしで働かされている実態は何ら改善されていない』『組合役員の高齢化に対して特別な企画や措置が



(近畿地協からは幹事を中心に出席)

必要ではないか」「消滅寸前の組合対策が緊急の課題になってくるのに組織拡大に向けて足が踏み出せていない現状があるのではないか」「金融ユニオンへの労働相談が特に東京で急増しており、東京地連の応援もお願いしたい」「東京地連は東京金融共闘にも加盟しているので、信金・信組以外の闘いにも要請があれば取り組んでいくので、遠慮なく声をかけていただきたい」等々さまざまな意見が出されました。

これらの討論を踏まえて「悩む単組と一緒に、地方組織が闘いを進め、地方組織の役割を發揮していく」ことを確認し、来年もこのような会議が開催できるようにお互いに検討していくことを申し合われました。

夜の交流会でも論議白熱

討論時間が足りなかつたのか、夜の交流会でも、「定年後も金融労連を支える」決意や「機関紙を通じて職場の仲間から組合への相談や要求が増えていく」「来年の全国学習交流集会を神戸か四国で」など会議の続きのような本音の話し合いがあちこちのテーブルで見られ、いつもと一味ちがう会議となりました。

新退職金制度原則合意 (京都北都従組)

7月26日、京都北都信金従組は、新退職金制度で、三役交渉の結果、育児介護休業期間の不算入問題について、金庫から「算入する」などとの前進回答を受け、新退職金制度移行について原則合意しました。

また、同日、開かれた執行委員会で、合意について討議の結果、承認されました。

育児介護休業期間の退職金算入について、現行の規約では、旧・京都北都及び合併後入庫職員に限定されていましたが、移行後は新規約により、全職員対象に勤続ポイント・資格ポイントが付与されます。

新退職金制度の規約などの申請は金庫により、7月28日に近畿厚生局へ提出されました。

従組はこれまで粘り強く交渉を続け、当初提案されていた不安定要素の高い「確定拠出型」の退職金制度を、「確定給付型」に変更させるなど多くの成果をかちとってきました。



原発問題で学習会

7月23日、和歌山県湯浅城で近畿地協第7回常任幹事会が開催され、その中で、日高原発核燃料施設反対30キロ圏住民の会の事務局長橋本武人氏による「大災害 原発を考える」の学習会が行われました。橋本氏は東日本大震災が起こる44年前から原発の危険性について警鐘を鳴らしてこられました。

講義は、原子力についての基礎知識から始まり、1967年7月9日を起点として30キロ圏住民の会結成までの20年間の闘いについて話されました。

当時の日高原発の誘致に対し、絶えず反対運動を起こし、1979年スリーマイル島事故以後、反原発運動について確信を持たれました。1986年、チェルノブイリ事故後も、推進派はひるまず、1987年10月1日に日高原発30キロ圏内住民の会を結成、2005年4月、原発誘致が国の指定から外されるまで「原発に頼らない町づくり」を町長と連携して運動を起こし、原発の火種を消してきました。その後、使用済み核燃料反対のたたかいの運動にも身を投じられています。



近畿でも各地で平和行進に参加

子供たちの未来のために
泉州地域を力強く行進

2011国民平和行進が大府にバトナタッチされ、7月2日泉州地域で行進が行われ、従組もOBと一緒に進みました。ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ヒバクシャに加え、「ノーモア・フクシマ」を強く訴えた今年の行進には、例年にも増して沿道や家々からも大きな声援の音が聞かれました。



滋賀県内を通し行進

滋賀従組では6月16日の岐阜県・関ヶ原の引継から6月21日の京都府山科への引渡しまで、さまざまなネットと先輩組員と



の連携で15人が県内通し行進を行いました。今年も例年以上に、沿道の若い人達から「がんばれ」と黄色い声援を受けての行進となり、今日の私の一歩が世界をも動かしているということを実感できました。

大阪・兵庫へ引き継ぎ

7月7日、雨の中で行われた、大阪府から兵庫県へバトナタッチする約10キロの平和行進に、金融ユニオンの仲間6人が参加しました。

今年も東日本原発の影響で、沿道市民からの関心も高く、参加した約300人の仲間が唱和する「ノーモア広島！ノーモア長崎！ノーモア福島」「原発を見直せ」「自然エネルギーに転換せよ」とのシュプレヒコールには、手を振って応える姿があちこちで見られました。



金融ユニオンチームが惨敗

7月29日に行われた大阪中央区労連のボウリング大会には地域の労働組合から12チームが参加しました。金融ユニオンからは大阪分会（浦野・松島・川村）と直属分会（伊藤・富士野・田畑）の2チームが



参加しましたが、それぞれ11位と12位という結果に終わり、メンバーの若返りが求められる結果となりました。